

選択枝や評価項目に関する海外有識者の主な意見

＜カラム核融合エネルギーセンター（英国）における取組事例＞

- ・ 全 30 オプションを検討し、事前評価で 10 オプションに絞り込み。
- ・ 適用性・実現可能性、経済性、環境影響、健康と安全、規制・対外関係に関する各数項目について評価。
- ・ 規制当局のアドバイスに従い、組織内のチームにて評価。

＜スリーマイル島（米国）における取組事例＞

- ・ 国家環境保護法（NEPA）が環境に影響を与える行為に関する国の評価を規定しており、①明確な除外、②概略評価、③環境影響評価の 3 段階で評価。
- ・ 24 の選択枝から、15 の選択枝が却下され、規制当局（NRC）が 9 つの選択枝は影響が非常に小さいと評価。
- ・ 9 つの選択枝から事業主体が、ステークホルダーへの説明等を経て選定。
- ・ 蒸発を選択後、処分までに 10 年を要した。
水量やその増加が少なく、時間的余裕があったため。

＜タスクフォースで議論中の選択枝に対するコメント＞

- ・ 十分な選択枝が揃っており、第一段階としては合理的な選択枝のリストになっている。
今後、どういう結果になるか関心をもって見ていきたい。
- ・ 物質が最終的にどこへ行くかわかる選択枝の整理となっており有益。
ただし、複雑すぎるので、軽減すべき。
- ・ 選択枝に名前を付けるとよい。例えば、「希釈して海洋放出」など。
- ・ 30～40 年という議論があったが、期間というのは重要な要素。
我々の場合、規制要件に 3 年以内の解決策を求められ、実績のない新しい技術は考慮できないという制約があった。
- ・ トリチウムの影響を定量化することは必要だが、他の核種と比べると非常に低く、厳密に定量化するのは、我々の持っているツールでは難しい。
- ・ 海洋や大気への放出という選択枝があるが、海洋放出の場合には漁業従事者への影響、大気放出の場合には農家などへの影響を計算しなければならない。影響を評価・計算する過程で様々な選択枝を比較することになるが、そのパラメータも多様。
- ・ 同位体分離は実現可能だが、確実性や時間を考慮すると、他の選択枝のほうがよい。
- ・ 地層注入のため水を何千台ものトラックで輸送するなら、事故発生等のリスクが高い。
- ・ 海洋放出はシンプルで簡単方法。沖合に放出する選択枝を推奨したい。
- ・ 蒸発を選択する場合には、TMI の手法よりも改善すべき。

など